

特集

災害からの再生

多久二千年ハスを守る会

時を越えて夏を彩る

夏の早朝、薄いピンク色の花を咲かせ、訪れる人の心を癒してきた聖光寺の二千年ハス。その始まりは、平成14年に野中寛應住職が、荒神谷博物館（島根県）から知人を通じて、5粒の種を譲り受けたことからでした。

野中住職は、寺が所有する休耕田で佐賀県初の二千年ハス栽培に着手。平成25年には有志による「多久二千年ハスを守る会」も発足し、細やかな維持管理の甲斐あって、約200平方メートルの池一面に二千年ハスが可憐に咲き誇りました。

多久聖廟の荘厳なたたずまいとも雰

聖光寺（多久町）の二千年ハスは、毎年7月、県内外から訪れる多くのみなさんを楽しませていました。令和2年の豪雨でハス池が泥や土砂に埋もれてしまうと、「多久二千年ハスを守る会」が、再生のための活動を開始。昨夏に続き今年も花が咲き、復興への兆しが見えています。



▲令和元年以前、多くの花を咲かせていたハス畑の様子

囲いが合い、二千年ハスが咲く聖光寺は人気の観光スポットに。平成26年に大町町へ、平成28年にはみやき町へと苗を分け、二千年ハスの縁も広がっていききました。

豪雨でハス池の石垣が決壊し、ハスが流されてしまいました▶



災害に負けず、復興の花を咲かせる

人気を集めていた多久市の二千年ハスですが、令和2年の豪雨によって、ハス池に泥や土砂が流入し、石垣も決壊。存続が危ぶまれるなか、現会長の陣内謙三さんが中心となりハス池の再生に動き出しました。

「私は発足当時の会員ではありませんが、会を立ち上げたみなさんがこれまでに作り、育ててくれた二千年ハスを何とか再生したいと思いを活動を決めました。東多久の吉浦啓一郎さんをはじめ多くの方のアドバイスや協力のおかげで、今の活動につながっているのが大変感謝しています」と陣内会長。会員や支援者でハス池の泥や土砂を取り除く作業から始め、除草作業、土壌づくりなどに汗

多久二千年ハスを守る会
会長 陣内 謙三さん（多久町）

二千年ハスとは？

おお が いちろう
植物学者の大賀一郎博士が、2000年前の地層から発見した蓮の種を開花させ、その後、各地に広がったという世界最古のハス。発見者にちなんで「大賀ハス」とも呼ばれています。